

事例6 小学校・高学年（5年生）

考え方・議論する意欲を引き出す補助発問の工夫を取り入れた授業

- 1 主題名** 互いに信頼し合う友達 **内容項目** B 友情、信頼
2 ねらい 主人公と父親の人間関係を比較することを通して、信頼し合う関係のよさに気付き、磨き合い、高め合える友情関係を築いていくこうとする実践意欲を育てる。

教材名 離れていても（出典：「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年における内容項目〔B友情、信頼〕「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。」を深めることをねらいとしている。これは、中学校の内容項目〔B友情、信頼〕「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」へと発展していくもので、友情関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことにに関する内容項目である。児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友情関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向づけられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し合い、助け合い、信頼感を育んでいくことが大切である。

高学年の段階においては、これまで以上に友達を意識し、仲の良い友達との関係を深めていくこうとする。また、いつも近くにいる友達や、趣味や傾向を同じくする友達との閉鎖的な仲間集団を作る状況もみられる。しかし、物理的な距離に関係なく、互いに信頼し合うことで友情を深めることも大切である。本教材では、情報機器を手段として用いることで距離的な問題を解決できることにも触れつつ、信頼し合うことこそが磨き合い、高め合うようなより深い人間関係を築くために大切であるということについて考えを深められるようにしていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、仲良く学級みんなで集まって遊ぶことが多い。7月の林間学校では、男女分け隔てなく、互いの考えを聞きながら協力して充実した2日間にしようという姿が見られた。一方で、相手の立場を考えずに自分の思いばかりを主張してトラブルになることもある。反対に、相手に遠慮をして自分の思いをなかなか伝えることができない児童もいる。これまで以上に友情関係をはじめとする人間関係を深めていくためには、自分本位な行動をしたり、過度に相手を優先させたりするのではなく、信頼し合うことによって互いに思いを伝え合い、磨き合って高め合える関係を築くことが大切である。さらに、今後成長していく中で大切な友達と離れ離れになってしまうことは誰もが経験していくこととなる。離れていてもそうでなくとも、友達と深い関係を築いていくことについて、本教材での学習を通して考えさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、揺れ動く主人公の「ぼく」の心情を考えながらねらいに迫るものである。

「ぼく」が転校することになったことを親友の仁に伝えると、離れたなら友達を続けるのは無理だと言われてしまう。帰宅後、オンライン会議をしていた父に「目の前でも、オンラインで

も、相手のことを信頼しているからこそ、言い合えるんだよ。遠く離れていたって、相手に伝えたいとか、相手を大切にしたいという思いは伝わるんじゃないかな。」と教わる。父の言葉を聞いた後、すぐに仁に電話をかけた。その後も、友情関係は続していくという話である。

本教材を活用し、より深い人間関係を築いていこうとする前向きな姿勢をもたせるために、主に以下の視点について話し合う。

① 転校することを伝えた場面での「ぼく」と仁はどんな気持ちだったか。

親友であり続けたいと思う気持ちと、物理的な距離の問題があると親友を続けるのは難しいのではないかと葛藤している心情や二人の考え方の違いを押さえる。

② 父の仕事仲間との関係と「ぼく」と仁の友情関係の違いはどんなところか。

会議をしている父は、相手への信頼が言いたいことを伝え合い、切磋琢磨して互いに磨き合うことにつながっている。「ぼく」と比較すると、父の人間関係は深い信頼で結ばれた高次のものであり、友情関係においても目指すべき姿であるということに気付かせる。

③ 父の言葉を聞いた後、「ぼく」は、仁にどんな言葉を伝えたか。

役割演技を通じ、相手のことを信じ、思いを伝えたいと思う心が大切だということに気付かせる。また、近くにいる友達についても目を向けさせ、信頼の下で高め合い、磨き合う友情を築くことには距離は関係がないことにも気付かせていきたい。

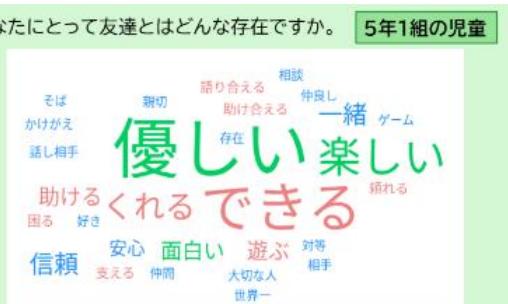
以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入～4分～	<p>1 事前アンケートの結果を知る。 ・友達とはどんな存在ですか。</p>	<p>児童</p> <ul style="list-style-type: none"> 一緒にいて楽しい。 一緒に遊んでくれる。 <p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> 何でも話せる。 相談ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に端末のアンケート機能を活用してとった意識調査の結果を示し、両者の違いに目を向けて、本時の方向付けを図る。

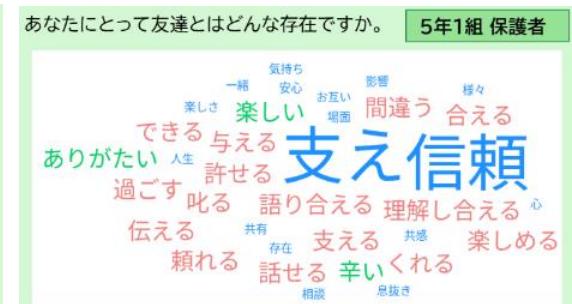
自分との関わりで問題意識をもつためのアンケートの提示（児童・保護者の比較）

あなたにとって友達とはどんな存在ですか。 5年1組の児童



5年1組児童用アンケート用紙。背景色は緑。中央に「優しい楽しい」と大きく書かれている。周囲には「一緒に遊ぶ」「仲良し」「相談できる」「助ける」「慈しみ」「安心」「面白い」などの言葉が散りばめられている。

あなたにとって友達とはどんな存在ですか。 5年1組 保護者



5年1組保護者用アンケート用紙。背景色は白。中央に「支え信頼」と大きく書かれている。周囲には「一緒に遊ぶ」「仲良し」「相談できる」「助ける」「慈しみ」「安心」「面白い」などの言葉が散りばめられている。

本時の内容に関わる人間関係のうち、児童にとって身近な「友達」に焦点を当て、アンケート機能で質問した結果を表示した。保護者からもアンケートをとり、導入で比較した後、その後も表示しておくことで、児童はより深い関係を考える際のヒントとしていた。

	<p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">問題意識を本時の課題につなげる言葉かけ</p> <p>T : どんなところが違いますか。</p> <p>C : 「支え」、「信頼」の文字が大きいです。</p> <p>T : でも、みんなさんの回答にも「支え」や「信頼」はありますよね。</p> <p>C : でも、選んだ人が少ない。自分たちの中にはないものは、「叱る」です。</p> <p>C : 外れた道から取り戻すような感じかな。大人の考えは深いな。</p> <p>T : 生きてきた先輩ですからね。でも、<u>深い関わり方とはどのようなものなのでしょうね。</u></p> <p>C : . . .</p> <p>T : 今日はみんなで考えていきましょう。</p>	より深い関わり方とは、どういうものだろう。
展開（38分）	<p>3 教材「離れていても」についての条件・情況を知る。</p>	<p>主人公：ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父の仕事の都合で転校することになった。 ・転校することを一番の親友の仁に伝えられずにいた。 <ul style="list-style-type: none"> ・条件・情況を伝え、主人公の心情に共感しやすくする。 ・二人は一番の親友であることを十分に理解させる。
	<p>範読に際し、気を付けたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件・情況をわかりやすく伝えて1度で理解しやすくする。 ・<u>範読前に、はじめに聞く視点を伝えておく。</u> ・<u>範読している最中に、本時で考えさせたい部分についての言葉を付け加えて読む。</u> ・挿絵のない父はAI画像で表情を2パターン作って提示した。 <p>(電話で) どんな話をしたのでしょうか。</p>	<p>ぼくと仁の気持ちを考えながら聞いてね。</p>
	<p>4 範読を聞き、主人公の心情について話し合う。</p> <p>(1) 転校の話をしたとき、ぼくと仁はどんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>補 2人の気持ちを比べて気が付くことはありますか。</p>	<p>ぼく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離れても友達でいたい。 ・タブレットなどでつながっていたい。 ・これからも一緒にいたい。 <p>仁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒にいることができないなら友達でいられない。 ・会えないのに友達を続ける自信がない。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」と「仁」を対比させて板書することで、2人の考え方の違いや共通点を捉えやすくなる。 ・考えは違っても、両者とも親友でいたいという気持ちがあることに気付けるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・離れたくない。 <p>(2) 父の仕事仲間との関わり方が「ぼく」と仁の関わり方と違うところはどんなところですか。 補 「ぼく」も仁のことを思っているから言い出せなかったのだから、二人にも父や仕事仲間と同じくらい深い人間関係があるのではないかでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことを言い合っている。 ・信頼し合っている。 ・相手のことを思っているから言い合っている。 ・言い合えるほどすごく仲がいい。 ・言わないほうが傷つける。 ・きちんと伝えられる関係のほうがもっと深い。 <p>・転校することさえもすぐに伝えることができなかつた「ぼく」と比較させ、父の人間関係からより深い関係を築くために相手を信頼することが大切であると気付かせるようにする。 ☆父の姿から気付いたことを友達の考え方と比べながら多面的・多角的に考えている。 (発言)</p>
--	--	---	--

児童の発言を深める工夫
(補助発問・アンケートの表示)

グループでの話し合い①

T : 父と仕事仲間との関わり方が、ぼくと仁との関わり方と違うところはどんなところですか。
C : お父さんは離れていても悲しいとか切ないという感情がないです。
T : どうしてそう思うのですか。
C : お父さんと仕事仲間は、オンライン会議でも楽しそう。ぼくと仁は仲がいい親友だからこそ離れていたら話せない。
C : アンケート結果から見てもわかるけれど、「優しい」関係がよいのがぼくと仁。お父さんと仕事仲間は、「信頼」が高いから離れていても変わらないのではないか。
大人のほうが深く信用している。わかりあっていると思います。
T : なるほどね。 みなさんは、今の考え方についてどう思いますか。
C : お父さんは、インターネットで会えているからいいのだと思います。
C : お父さんは、オンラインで話して信頼関係ができているけれど、僕と仁は、離れたら話せない。という印象です。最終的には忘れてしまうのではないか・・・。
T : そうなのですね。ところで、お父さんと仕事仲間は、お互いに強く意見を言い合っていたようですが、信頼しているなら相手の考え方を認めてあげればよいのではないでしようか。
C : 会議だから、自分の意見もきちんと言わないといけないと思います。

規律ある態度の育成

【話を聞き、発表する】
小グループでは、一人一人の発表が終わった後、話し合いの時間終了までお互いの考え方を比べ合い、気付いたことを伝え合うことができるよう働きかける。

C : 相手を信頼しているし、お互いに分かり合っているからちゃんと言うことができます。

C : 言わないと自分の意見を伝えることができなくなってしまい、後で嫌な思いをしてしまいます。

T : 自分がもやもやするから、自分の意見を伝えたほうがよいということでしょうか。

C : それもあると思うのですが、家の人の考え方（大型TVのアンケートを指す）「与える」という言葉がありました。自分の意見と相手の意見が違うから、相手のためにもなるし、相手もぶつかってくれるという信頼があるのだと思います。

より深く価値理解に迫るための補助発問の工夫

T : 「ぼく」も相手のことを思って不安を感じたり、これからも友達でいたいって思ったりしていたのだから、お父さんと仕事仲間と同じくらい関係が深いのではないか。

C : ちょっと違います。

T : 何が違うのですか。

C : 相手を思っている深さが違います。子供は近くにいないと嫌だと思っているけれど、お父さんはそれでも大丈夫。相手のことを深く隅々まで知っていてわかっているから言い合える。

C : 「ぼく」はなかなか言いたいことを伝えていないけれど、父ははつきり伝えています。父は信頼が深いから、本来は言いづらいこともきちんと伝えているのだと思います。

(3) 父の言葉を聞いて、「ぼく」は電話で仁にどんな言葉を伝えたらでしょうか。

- ・仁と離れるのはさみしいけれど、これからも親友でいてほしい。
- ・お互いを信じ合っていれば、距離なんか関係ない。
- ・オンラインなどで離れてもたくさん話をしよう。

・代表の児童が「ぼく」役、教員が「仁」役になって役割演技をする。演じる側だけでなく、見ている児童に気付いたことを話し合わせることで考えを深める。

児童から考えを引き出す役割演技の工夫

C:「ぼく」役

T:仁役

価値理解だけでなく、道徳的価値をなかなか実現できない人間の弱さにも気付かせ人間理解も深めるために、今回は教師と代表児童で役割演技を行った。
代表児童の発表の際には、聞いている児童に「心に残ったこと」を探しながら聞くように声をかけ、気付いた点を問うようにした。

T : 「ぼく」は仁に電話でどんな言葉を伝えたのでしょうか。電話をかけて話してみましょう。

C : もしもし。

T : どうしたの。

C : 今日は急に転校のこと言ってごめん。なかなか言いづらくて・・・。

T : どうして言いづらいの。

C : 仁を傷つけるかもしれないと思ったら、なかなか言えなかつた。言うのが遅くなつてごめん。
T : いいよ。でも、もう会えなくなるんだよね・・・。

C : うん。でもぼくはやっぱりこれからも仁と親友でいたい。

T : 離れてしまうのに、親友でいられるの。

C : お父さんが言っていたのだけど、目の前でもそうじやなくとも相手の人を信頼していたり、思っていることを伝えたりすることはできるんだって。仁を大切だと思う気持ちは変わらないし、離れていても今と同じ関係をずっとずっと守つていけるんだよ。

T : それって、本当にできるのかな。新しい友達ができたらすぐに僕のことなんか忘れるかもしれないし、新しい学校のことが忙しくて連絡なんかしている時間がないかもしれないよ。

人間理解を深める発言

C : たしかに、簡単ではないと思うし、ぼくも不安はすごくある。でも、仁と親友でいたいし、仁が大事っていう気持ちは、離れても時間がたつても変わらない。だから、連絡できないときもあるかもしれないけど、これからも、できるときはオンラインや電話でつながって話をしよう。ずっと親友でいたい。

T : (聞いていた人に) どんなことが心に残りましたか。

C : さっき（学校で）と違って今度はお互いにきちんと言い合えているところが心に残りました。

C : 仁を本当に信頼していたり、大切に思っていたりする気持ちが伝わってきました。

C : 不安はあるけれど、一番大事なのは、親友でいたいという気持ちなのだと思います。

補 みんなのように友達が
近くにいたら、今より
深い関係を築くことは
できないのでしょうか。

- ・近くにいても深められる。
- ・父のように相手に遠慮しないで伝え合うともっと深い関係になれそう。

- ・補助発問をすることにより、教材の中から自分自身の友情関係へと考えを広げていけるように働きかける。

自分との関わりで考えるための補助発問の工夫

グループでの話合い②

T : 離れたあとも、さらに仲を深めることができましたね。でも、みんなのように友達が近くにいたら、今より深い関係を築くことはできないのでしょうか。

C : それはちがうと思います。

T : 話し合ってみましょう。（数分後） グループの話合いで出た考えを教えてください。

C : 離れていても、今までと変わらずに関係を深めることができます。近くにいても、関係は変わらないのではないか。

C : 近いとか遠いとかではなくて・・・お父さんもお家の人も言っていたけれど信頼し合ったり、伝え合ったりすることが大事だと思います。

C : 相手のことをたくさん理解して、言い合える仲になれたらしいです。

教材や保護者の考えでは、離れている関係性の友情や人間関係が多いが、児童の身近な友情や人間関係は近くに存在するものがほとんどである。教材の中の話だけで終わらないように、最後に補助発問をして、グループでの話合いを取り入れ、子供たちが自ら考え、語りたくなるよう工夫した。

より深い友情関係を築いていくために大切なことは何だろう。

話し合いを経て子供たちの考え方方が深まったため、課題にも深まりが生まれた。
そこでこの段階で新たな課題を、子供たちに投げかけた。

5 今日の学習を振り返る。
・今日の学習を通して、友達とより深い友情関係を築いていくために大切なことはどのようなことだと思いましたか。これまでの自分を振り返って感じたことを書いてみましょう。

- ・離れてしまっても友達を信じて、オンラインや電話などもしながらお互いに思っていることを伝え合って、よい友達でいたい。
- ・友達は普段近くにいるけれど、これからも信じ合う気持ちを大事にし、思ったことは言い合っていきたい。
- ・思いを伝え合い、高め合えるようにしていきたい。

- ・アンケート結果を再度表示し、大人の友情観と自分自身を比較して振り返ることができるようとする。
- ・書く活動を通じて、道徳的価値を自覚できるようにする。
☆自分自身を振り返り、距離ではなく、互いを信頼し合うことが友情を深めるために大切なことを、自分との関わりで考えている。(ワークシート)

「自己を見つめる」ための書く活動

- ・会えないと友達の意味がないと思っていたけれど、近くにいなくても気持ちは変わらないことがわかりました。会えても会えなくともずっと信じられる友達をつくっていきたいです。
- ・より深い関係にするためには、お互いを信じる信頼関係が大切だと思いました。これからはさらに友情を深められるよう、お父さんと会社の人のような信頼関係を気付き、意見を言い合ってお互いのためになる関係になっていきたいです。
- ・私は、今日の学習を通して、本当の友達なら、近くにいても離れていてもずっと友達のままなんじゃないかと思いました。私も仲良しの友達がいるけれど、正直、何でも言うことはできません。でも、もっとたくさん分かり合って、何でも言い合えるくらいになりたいです。

6 林間学校で歌った歌をみんなで歌う。

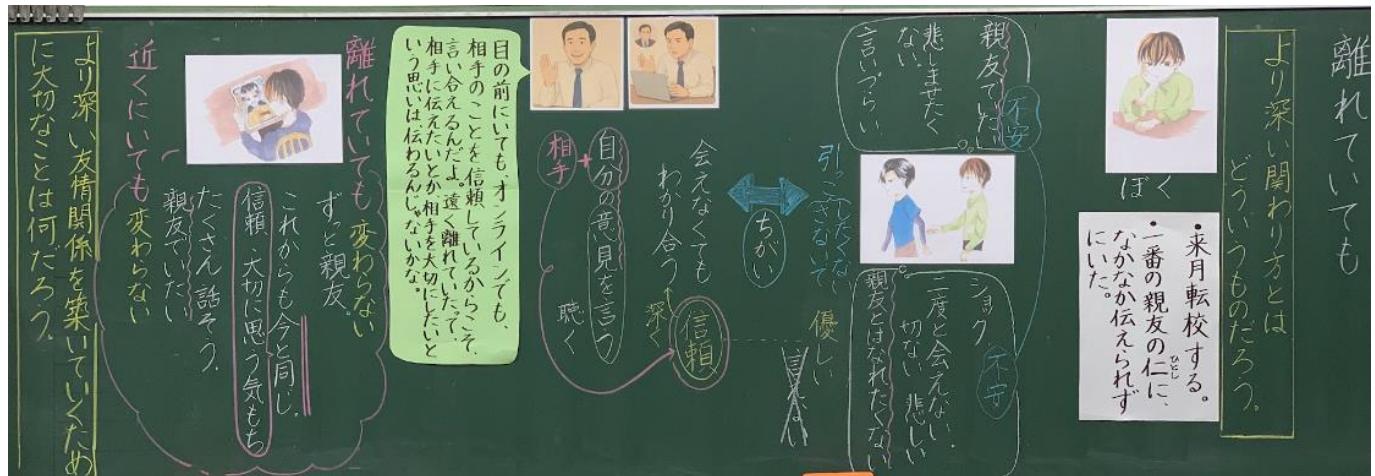
心をあたためて締めくくる終末

終末では、林間学校のキャンプファイヤーで歌った歌をみんなで歌った。林間学校の前に学年みんなで話し合って曲を決定した。林間学校では友達と衝突することもあったが、自分たちでどうすべきかを考えて行動し、相手の思いを聴いたり、自分の考えを伝えたりしてそれを乗り越え、友情を深めて成長して帰ってくることができた。児童は、キャンプファイヤーの終盤にみんなで肩を組み、心を込めて学年で決めた歌を歌った。歌い上げて子供たちの絆の深まりに感動した。林間学校でのお互いに高め合い、磨き合って深めた友情を第一歩として、歌詞に含まれる内容

終
末
～
3
分
～

のように一緒にいる今も、離れることになる未来にも、信頼し合える大切な友達のよさ存在を感じてほしいという願いを込めて、終末に歌を歌った。

5 板書



6 他の教育活動との関連

事前指導	事前アンケートを取り、児童の友情観に対する実態把握をするとともに、問題意識をもたせる。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・5月 教材名『すれちがい』（相互理解・寛容） ・10月 教材名『ひみつのグループトーク』（友情・信頼）
事後指導	グループでの活動を積極的に取り入れ、協力して高め合う活動を継続的に行ってよりよい友達関係を築いていく。
家庭との連携	アンケートに協力してもらい、事後にも授業の様子を伝えることで、家庭でも道徳的価値について話し合う機会となるようにする。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・父の姿から気付いたことを友達の考えと比べながら多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分自身を振り返り、距離ではなく、互いを信頼し合うことが友情を深めるために大切なことを、自分との関わりで考えている。